

ふるさと
資料紹介

= 59 =

史料と地名からみた

地区の歴史⑭

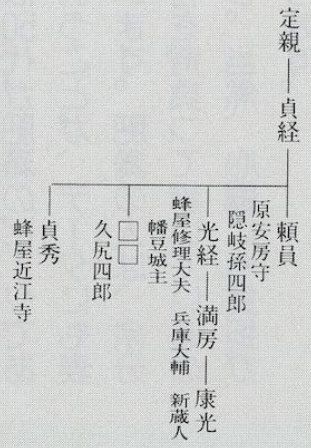
蜂屋 (一一)

十四世紀の初め、足利尊氏あしかがたかうじにより室町幕府が開かれまし
た。当時、美濃地方に勢力の
あつた土岐氏の頼貞はこの時
美濃国の守護に任命されまし
た。その頼貞よりさだの兄・定親は当
時の蜂屋庄を分け与えられ、
「蜂屋定親はちやさだちか」と、初めて蜂屋
の姓を名乗ります。その後、
この蜂屋氏は南北朝の動乱の
中、全国各地で断片的に名前
が出てきます。

伊達政宗の菩提寺として知
られる宮城県の瑞巖寺には、
「蜂屋観音」と呼ばれる観音
像が安置されています。宮城
県の松島付近には蜂屋を姓と
する家が多く、蜂屋氏の子孫
の人たちともいわれています。
また、蜂屋氏は尾張・知多
郡の幡豆城はづの城主としての記
録も残っています。

蜂屋氏系図

尊卑分脈より



今回は、次の方から貴重な
資料を寄贈いただきました。
ありがとうございました。

(平成八年四月分)

- 近世近代文書 約二百点
(南波秀光さん/田島町)
 - 箱膳、重箱など 十二点
(加藤定敏さん/中富町)
 - 米選機、芋きり機など十点
(小藤敏博さん/山之上町)
- 計画中の博物館建設のため、現在いろいろな資料を収集しています。文化課(文化会館内/☎内四〇八)まで情報をお寄せください。